

## ご挨拶

主イエスのご降誕を祝う季節が巡ってまいりました。毎年、この季節になりますと、三十年余り前、ベツレヘムの降誕教会を訪れた時のことを思い出します。

岩の要塞のような教会の中に、小さな入口から身を屈めて入りますと、煌びやかな装飾に満ちた礼拝堂が現れます。カトリック教会、ギリシャ正教会、アルメニア正教会と、三つの教派の礼拝堂が並び、その奥にあるアルメニア正教会の礼拝堂の隅にある階段を降りて行きますと、ここで主イエスがお生まれになったと伝えられる洞窟に辿り着きます。星の形に銀が嵌め込まれた大理石の中心に小さな穴が空いており、その下に岩が見えます。ここが、主イエスがお生まれになった場所だと説明を受けました。その後、隣の聖カテリーナ教会（カトリック）に案内され、その地下にも同じような「ヒエロニムスの洞窟」と呼ばれる洞窟があり、ヒエロニムスが、ここで聖書をラテン語に翻訳したと説明を受けました。その洞窟に入った時、私は、思いもよらない感動に襲われました。様々な装飾に飾られた場所ではなく、何の飾りもない、剥き出しの岩肌に囲まれた空間に立った時、ああ、このような場所に、主イエスはお生まれになったのだと、言葉にすることのできない感動がありました。

「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、現場に行かなければ、決して見えない世界があるのです。それまで、主イエスは馬小屋で生まれたと思いきんで聖書を読んで来ましたが、その現場に立って初めて、主イエスが生まれたのは、羊たちを夜露や寒さから守るために使われていた羊飼いの洞窟であって、私がイメージしてきた馬小屋ではなかったことが分かりました。

今回のニュースレターが、皆さまに改めて、様々な問題を抱えた被災地の現場のありのままの姿をお伝えする助けになれば幸いです。

クリスマスの祝福が皆さまに豊かにありますように。

2025 年待降節

理事 木田恵嗣